

第4回橋本市ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇ 開催日時 2018年12月07日(木) 16時～18時
- ◇ 会場 橋本市教育文化会館
- ◇ 参加者 野田・五十川・(川西)(三石小)、岡村・西淵(紀見小)、辻本(あやの台) 森(橋本市教委)、北村・中澤(奈良教育大学)



◇ 内容

1. 学習指導案分析の視点

学習内容の分析・学習方法の分析

(1) 学習内容の分析

教科学習の場合：教科の目標 + ESDの視点・価値観

総合的な学習：ESDの視点・価値観

これらが単元の目標・教材観に記されていること

① ESDの視点(見方・考え方)

	対 象	要素について	作用について	性質について
実態概念	自然環境・社会環境	多様性	相互性	有限・循環性
規範概念	人や集団の行動や意思決定	公平性	連携性	責任性

多様性：色々ある方がいい

相互性：つながっている、つながりを尊重する

有限性・循環性：有限なものである。それが循環していればいい。

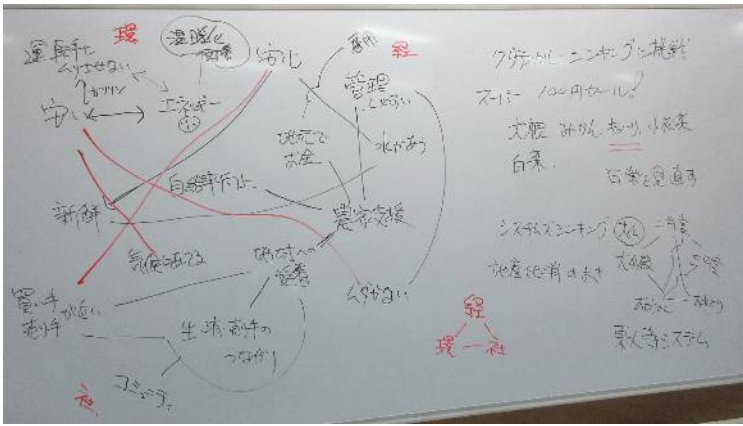
公平性：世代内と世代間の公平を考えていることが重要。

連携性：排他的でなく、異文化を背景とする人々などとも妥協点を見出し、協働する。

責任性：最後までする。リーダーシップを発揮する。協力する。

② ESDで育てたい価値観

- ・ 世代内の公正を尊重する
- ・ 世代間の公正を尊重する
- ・ 生態系・自然環境の保全を優先する
- ・ 人権・文化を尊重する
- ・ 幸福感(与える・得る)を中心にすえて判断・行動する。



(2) 学習方法について

以下に注意して、指導観に記載されていること

「主体的・対話的で深い学び」がキーワード

・説明・納得型の授業展開ではなく、問題解決型の授業展開

○インパクトのある導入が工夫されている

○学習の流れ（問題解決型）

課題（問題）の発見 → 調査内容・方法の話し合い（仮説をもつ） → 調査活動

（個人→全体）

（全体→グループ化）

（グループ）

→ 仮説の修正 → 表現・発信 → 学級全体での話し合い → 一応の解決と発信・行動化

（グループ）

（グループ→全体）

（全体→個人）

（個人・全体・グループ）

○児童生徒相互のコミュニケーション・対話中心の授業展開

○教室外での学習

- ・フィールドワーク・見学
- ・大人へのインタビュー
- ・体験的な学習

○E S Dで育てたい資質・能力を養う工夫がある

①クリティカル・シンキング（批判的思考力・代替案の思考力：当たり前を問い直す）

②システムズ・シンキング（総合的思考力：つながりをとらえたり、つなげたりする）

③長期的思考力（データを分析して、将来への影響を考える）

④コミュニケーション力

⑤協働的問題解決力

2. E S D学習指導案の相互検討

①西淵

「つくろう あそぼう くふうしよう」（生活科）

- ・廃材を利用するとE S D的な学習になる。
- ・活動する目的意識があると主体的になる。（1年生の時にしてもらったことを思い出す場面）
- ・活動後の振り返りでE S Dの見方・考え方をおさえることができる。E S Dの観点で価値づけする。
- ・おもちゃづくりをグループで相談したり、やってもたり、1年生役を決めたりして思考錯誤した。
- ・生活科では振り返りが重要。個人的な振り返りも重要。適切なアドバイスを行うことで、学びのレベ

ルをアップさせる。

- ・ルールも大切だが、楽しくするにはどうすればよいか、という前向きなアドバイスがよい。
- ・幼稚園での学びと生活科で学びの違いがあるはず。工夫させてもよい。

②野田

「調べて作ろう～冬野菜編～」(総合的な学習の時間)

- ・単元名にお雑煮でおもてなし などを明記する
- ・お雑煮でというのをまずもってきて、そのために何を植えるか、どんなお雑煮にするか、など主体的にできる。
- ・インターネットで調べるのもいいが、人にインタビューするのがいい。
- ・材料などの由来(日の出ニンジンを丸く切るのは「まるく平和的に暮らせる」ように)
- ・もちまきだけでなく、もちをつかった各地の行事を調べることで多様性に気づかせる。

次回の順番 ③辻本、④五十川、⑤米山、⑥岡村、⑦川西



次回は、平成31年1月11日(金)です。